

2022年度人事委員会勧告に向けて

賃金引上げなどを要求



要求書を手渡す香教組石川中央執行委員長

中高年層の賃金改善をはかること

香川教育

発行所
高松市田村町1033-3
TEL(087)867-4797
FAX(087)867-6446
kakyoso@kakyoso.com
香川県教職員組合
定価 1部50円 1月100円
組合員の購読料は組合費に含む

香教組ホームページ

<http://kakyoso.com/>

一時金は期末手当に一本化し、年間5ヶ月以上とする

この2年間の給与に関する勧告では、若年層は大幅にベースアップしているが、ベテラン層はベースアップ0。55歳昇給停止。定年延長にでは、給与は7割水準。一時金は、少ない。これでは、モチベーションが低下する。若年層も希望がもない。

度が導入されてかなりたつ。これにより、教職員の資質が向上したとは思えない。また、モチベーションが上がったという話も聞かない。教職員の仕事は、チームで助け合って行なうもの。公平感も増している。

成績率で支給する勤勉手当を無くすこと。

教職員の長時間過密労の解消・少人数学の一層の拡充のため定数増を行うこと。

国の方針で小学校は段階的に35人以下学級になつたが、中学校はまだ。配定数を使って、少人数学級にしているため、学校から教員総数が減つているところもある。結局、

教員の仕事量は増えた。働き方改革は進んでいない。

GIGAスクール構想で

端末は整備されたものの、研修する時間の確保もなく、忙しさは増した。

小学校は、専科授業の充実で、学級担任の持ち時間数は減らされているが、専科教員や特別支援学級担任の時間数は増えている。

教員に臨時はない。現場は、講師も教諭も同じ仕事をしている。同一労働同一賃金という面からも、講師の待遇改善が必要だ。香川県の講師の給与は全国でも低位た。早急に改善を。

「再任用教職員を定数外に位置づけること。再任用教職員の月例給、期末手当などの賃金水準の向上を図ること」。

香小研・香中研・小体連・中体連等外郭団体に対して、県教委は「お願いはできても指導はできない」と言っている。では、外郭団体が暴走すれば、誰が止めるのか。香小研は、働き方改革が叫ばれても、時間外の指導案検討会、研究部の会議などが行なわれている。研究授業も、輪番制で拒否権はない。授業内容も日常の授業でできないようなことをさせられている実態が

制度のもつ労働基本権制約の代償機関としての機能を十分に發揮し、教職員の勤務実態、生活実態と要求を十分に反映した勧告を行うこと。県教育委員会と教職員団体の間での労使協議がしっかりとできるよう働きかけることとともに、賃金引上げ等を要求しました。

ある。また、ハーフ採用では、生活に困窮時、アルバイトをして生計を維持している例も始めた。定年延長も決定し、60歳以降の年金支給開始年齢までの生計維持は大きな問題だ。

を求められる。

「定数内講師」をなくし、全員教採用すること。また、講師に対しても教諭と同じ給料表を適用すること。講師の給与と非常勤単価は、全国的に低位である。講師の頭打ち制度と全国的にも低位である非常勤講師の単価を早急に改善する勧告をだすこと。

労働基本法では、労働者は、団結権・団体交渉権・争議権が認められていますが、公務員には、争議権が認められていません。

そこで、人事委員会が、官民較差を調査して職員の給与に関する報告・勧告を行ないます。

「労働基準主管局」「都道府県労働局」「労働基準監督署」に相当する機関です。人事委員会が設置された趣旨は、中立公正な公務員制度を確立することに加えて、公務員制度の民主的運営および公務員の身分保障制度の補強とされていま

現実の人事委員会のありようは、かなり、疑問符が飛び交います。

「教育のつどい」コロナ禍でも学びたい！Z

- 8月22日（日）10時～16時**
- 12 生活指導・自治的活動** さまざまな課題を抱えた子どもたちに、教師としてどう向き合おうか。自治的活動を通して、子どもたちの前向きな力をどう引き出すか、深めていきましょう。
- 13 発達・評価・学力問題** コロナ禍の地域・家庭生活、並びに教室の子どもの姿を通して、学力あるいは学力の基礎とは何であり、それを育てるために大切にすべき発達の課題や評価について、学び考え合います。
- 14 幼年教育と保育** 子どもも大人も主体的な保育・教育をすすめるために大切なことは…。幼児・小学校低学年の姿、職場・地域の運動から考えていきましょう。
- 15 幼年教育と保育** 子どもも大人も主体的な保育・教育をすすめるために大切なことは…。幼児・小学校低学年の姿、職場・地域の運動から考えていきましょう。
- 16 思春期・青年期の進路と教育** 心に寄り添う実践がコロナ禍で一層求められています。子ども現状、心の支援、授業実践、進路実現など、さまざまな観点で学び合い語り合いましょう。
- 17 ジェンダー平等と教育(10時～16時10分)** ジェンダー平等の教育は、すべての人の尊厳と性の権利を認め合い、個々の多様な幸せの実現につながります。ともに関心を育み、語り合い、学び合いましょ
- 18 子どもの人権と学校・地域・家庭** 子どもの権利条約を基軸として、子ども・学校・地域・家庭等がおかれている状況を話し合います。また、子どもの学習権や人権を取りもどすための議論を深めます。
- 19 平和と国際連帯の教育** コロナ禍で国民は望んでいないにもかかわらず、国民投票法が改悪され、「改憲」準備が進行しています。教科書の改悪も企てられている今、戦争と平和について学び合いましょう。
- 20 学校づくりへの子ども参加父母・教職員・地域の共同(10時～16時30分)** 「コロナ禍」は学校づくりの根本を私たちに問いかけています。大切なことは何か、その答えを全国から寄せられる珠玉の実践を共有しつつ考え合います。
- 21 教育条件確立の運動** コロナ禍における地域・家庭・学校・貧困・格差の拡大やG.I.G.Aスクール構想などの施策の問題を共有し、子どもに豊かな学びを保障する教育条件について考えましょう。
- 22 環境・公害問題と教育** 「SDGsは世界の課題であり、私たちは身近な問題です」――今、

私たちに求められていることは何でしょうか。地球の未来と一人ひとりの足下について考えてみませんか。

28 今日の教育改革

ーその焦点と課題

コロナ禍の下、学校に押し寄せた教育を考える」

- 「めざせ20人学級」、これからどうとりくむか
- 学校統廃合ではなく、地域の学校で豊かな学びを
- 特別支援教育の学びの場の充実を
- 子どもの視点で教育条件を考える
- 教育無償化をどうめざす
- 教育の実験を

教育アーラム

8月20日（金）19時～ 時

- 子どもの権利条約の視点を大切にしながら、父母・保護者、市民、教職員、教育関係者がともに語り合いましょう。
- A 語ろう「コロナ禍の子どもたち」
- 子どもたちに何が起きているか？
- 子どもたちのいのちと健康、安全を守り、成長・発達を支えるとりくみ
- 「新しい生活様式」と子どもとの願いに寄り添うとりくみ
- 子どもたちの居場所づくりをすすめるとりくみ
- 「こうあるべき」からの脱出
- 障害者にとってのジェンダーペースを広げて
- 「ジェンダー平等をどう広げていくのか
- D 多様性って何？――ジェンダー平等を通して考える――
- 人間らしい多様性の意味を考える

それでもやる

2021年度の教育つどいは、すべてオンライン開催になります。参加は事前登録が必要です。

（7月15日～8月10日の間）

参加ご希望の方は、お近くの組合員か、香教組本部（087-867-4797）までお問い合わせください。



いよいよ東京オリンピック開催が間近に迫ってきました▼4度目の緊急事態宣言が発令中の開催。

生徒の動員は、全て取りやめになつたそうです▼全国の学行事が中止あるいは延期される中、オリンピックは新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されてもここまで開催されることは、これまで「太平洋戦争」でしまった。「いまさらもどら開催されるでしょう。『いまさらやめられない』といふことでした。『いまさらもどられない』『やめ方がわからない状況がそつくりだと』『まさらやめられない』』といふことでした。『いまさらもどられない』『やめ方がわからない状況がそつくりだと』

私たちに求められていることは何でしょうか。地球の未来と一人ひとりの足下について考えてみませんか。

学校の実現を

「コロナ禍のもと、ゆきとどいた教育を考える」

リパラ大会開催が間近に迫ってきました▼4度目の緊急事態宣言が発令中の開催。

選手もいるとしたら、それは決して「平和の祭典」とはいえないと思うのですが…。

- 「めざせ20人学級」、これからどうとりくむか
- 学校統廃合ではなく、地域の学校で豊かな学びを
- 特別支援教育の学びの場の充実を
- 子どもの視点で教育条件を考える
- 教育無償化をどうめざす
- 教育の実験を
- 「こうあるべき」からの脱出
- 障害者にとってのジェンダーペースを広げて
- 「ジェンダー平等をどう広げていくのか
- D 多様性って何？――ジェンダー平等を通して考える――
- 人間らしい多様性の意味を考える



いよいよ東京オリンピック開催が間近に迫ってきました▼4度目の緊急事態宣言が発令中の開催。

生徒の動員は、全て取りやめになつたそうです▼全国の学行事が中止あるいは延期される中、オリンピックは新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されてもここまで開催されることは、これまで「太平洋戦争」でしまった。「いまさらもどら開催されるでしょう。『いまさらやめられない』といふことでした。『いまさらもどられない』『やめ方がわからない状況がそつくりだと』『まさらやめられない』』といふことでした。『いまさらもどられない』『やめ方がわからない状況がそつくりだと』

